

第3部 希望の家の運営

I 令和3年度事業総括

第1 課題及び基本方針への対応

利用者の個別性を大切に、公益性のある法人が運営する施設として、地域の方々のご協力に支えられながら、利用者は元より市民に信頼される施設運営に努めました。

また、利用者の障がい特性を理解し、一人ひとりに対して健康的で楽しい日中活動を提供しました。

第2 重点項目の総括

1 感染対策を踏まえた活動の工夫

新型コロナウイルスの流行により実施できなくなった外出活動等に代わる活動を企画しました。例えば、旅行会社に依頼して「いちご狩り体験」を施設内で行ったり、NPO えほんうた・あそびうた代表の西村氏を招いて絵本と歌のライブを実施したりする等、新たな取組が生まれました。

また、普段の活動としても、地域の企業から新たな受注作業を得る等、作業活動の幅も広がりました。

2 利用時間終了後の延長利用

希望の家深大寺に続き、調布市希望の家でも延長利用のサービスを開始しました。延長利用時の送迎対応等、サービス内容の拡充についてのニーズに対して、体制面の課題等から全てに応じることが難しい状況ですが、安全で安定的な施設運営を行えることを前提に、引き続きより良いサービス提供に努めます。

3 職員の人材育成と業務の効率化

職員の人材育成としては、例年行っている虐待防止研修を全職員対象に実施した他、積極的に各種オンライン研修等を受講できる機会を設けました。施設内研修としてはミニ勉強会等を行い、障がい特性の理解や支援の考え方について学びを継続しています。また、各職員が統一的な方法での支援ができるよう、各種マニュアルの整備を進めました。

しかし、第三者評価の職員アンケートでは「人材育成の仕組みが不足している」という回答が複数あり、職員の質的向上に安定的に取り組むためにも、体系立った育成制度を検討していく必要があります。

業務の効率化としては、生活記録の書式の見直しを行いました。より必要性の高い情

報のみを抽出して記録ができるようにし、入力時間の短縮化と、記録の探しやすさを高めました。

II 個別事業

第1 調布市希望の家の運営

番号	事業名	財源			
		自主 寄他	補助	委託 市	利用 ○
(1)	調布市希望の家運営受託事業				

結果の概要

- マスクやフェイスシールドの着用、アルコール消毒、食事の座席配置の考慮等、感染予防に取り組み、クラスター発生を防止した。
- 地域住民へ向けてアイスクリーム等や自主製品の販売を行った「夏祭り」、施設内にて利用者向けの「いちご狩り体験と試食会」、定例の「音楽鑑賞会」、「成人を祝うつどい」等、新たな取組も含めて、様々な企画・行事を実施した。
- 個別支援計画に基づいた支援を行い、利用者やご家族との面談も徐々に対面での実施を再開し、更なる関係性の強化と情報交換を行った。
- 各種支援や業務方法のマニュアルを整備し、各職員が同じ水準で業務・支援にあたることのできる仕組みづくりに取り組んだ。
- 3年に一度の実施が定められている第三者評価を受審した。

1 利用人数

結果の概要

- 調布市希望の家は利用者25人。新規利用者として4月から1人が入所した。
- 調布市希望の家分場は利用者12人（年度当初）。新規利用者として4月から1人が入所した。7月に利用者が1人逝去し、11人となる。

実績等

利用実績（年間）※休日／土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
調布市希望の家	利用人数(人)	24	23	24	25	25	25	25	24	24	24	24	24	291	24.3
	開所日数(日)	21	18	22	20	21	20	21	20	20	19	18	22	242	20.2
	のべ出席人数(人)	447	381	481	440	454	444	468	440	441	428	381	481	5,286	440.5
	出席率(%)	89	92	91	88	86	89	89	92	92	94	88	91		90.1
調布市希望の家分場	利用人数(人)	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10	10	124	10.3
	開所日数(日)	21	18	22	20	21	20	21	20	20	19	18	22	242	20.2
	のべ出席人数(人)	218	194	235	202	192	198	202	191	190	184	169	214	2,389	199.1
	出席率(%)	94	98	97	92	91	99	92	96	95	97	94	97		95.2

利用者年齢構成等（令和4年3月31日現在）

年 齢	調布市希望の家			調布市希望の家分場			全体
	男	女	小計	男	女	小計	合計
～19歳	0人	1人	1人	0人	1人	1人	2人
20～29歳	8人	3人	11人	0人	2人	2人	13人
30～39歳	4人	0人	4人	2人	0人	2人	6人
40～49歳	2人	1人	3人	1人	0人	1人	4人
50～59歳	1人	1人	2人	3人	2人	5人	7人
60歳～	1人	3人	4人	0人	0人	0人	4人
計	16人	9人	25人	6人	5人	11人	36人
平均年齢	33歳	43.8歳	36.9歳	46.2歳	36.6歳	41.9歳	38.4歳

利用者障害支援区分構成（令和4年3月31日現在）

障害支援区分	調布市希望の家			調布市希望の家分場			全体
	男	女	合計	男	女	小計	合計
区分1	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
区分2	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
区分3	0人	3人	3人	0人	0人	0人	3人
区分4	4人	2人	6人	2人	1人	3人	9人
区分5	8人	2人	10人	2人	2人	4人	14人
区分6	4人	2人	6人	2人	2人	4人	10人
計	16人	9人	25人	6人	5人	11人	36人

2 健康維持、教養娯楽活動、各種イベント等

結果の概要

- 各教室活動や作業療法活動等、専門講師による活動を継続的に行うことで、健康維持向上や生活リズムの安定につながった。
- 健康維持のため、ラジオ体操やウォーキング等の運動の機会を提供した。
- 週2回会議室を利用し、ウォーキングやサーキットトレーニングを行い、天候に左右されず安全に運動する機会を取り入れた。

実績等

健康維持活動	回数／時間・対象者
朝体操	本場：週1回 分場：毎日
ウォーキング	不定期・1時間～2時間
フィットネス	本場：週2回 ウォーキング・サーキットトレーニング 分場：週1回 輪投げ、ボール投げ、マット運動等

体操教室	本場：月2回・2時間（30分間×4グループ） ストレッチや筋トレが中心の活動体力や年齢を考慮したグループ別で行っている 分場：月1回1時間 前半にストレッチ、後半にダンス等を行っている。
水泳教室	【事業中止】

教養娯楽活動	回数及び実施日時／時間・対象者
音楽教室	月1回・1時間
ジャンベ教室	月1回・20分 打楽器の演奏
運動会	福祉作業所等連絡会主催運動会に参加【事業中止】
音楽鑑賞会	11月12日にプロミュージシャンを招いて実施。
年度末お楽しみ企画	本場・分場は合同で開催。 3月18日に本場の2階にてNPO えほんうた・あそびうた代表の西村氏を招いて絵本と歌のライブを実施。
高齢デイ「楽しい会」	50歳以上を対象にした月に1回の活動【事業中止】
季節行事および出前給食	奇数月と季節行事の時期に出前給食を取り、外食活動の代替とした。（土用の丑の日にはうな井の出前を取る等）

その他の活動	回数／時間
作業療法活動	月1回・1時間程度 作業療法士による運動機能維持等の活動。

分析・課題

- 利用者の年齢は10～70歳代の幅広さがあり、年齢層や体力面、特性・相性に応じた利用者のグループ分けによるプログラムの検討が必要となる。
- 体重の増加が課題となる利用者が多く、今後、運動量の確保を目的とする活動を増やすことが必要と思われる。

3 生産活動

結果の概要

- 企業受注では、これまで同様、榮太樓総本舗の和菓子の梱包、鈴木螺子工業のネジの組立て等の他、新たに六和精工より部品組み立て等の作業を受注した。
- 自治体からの古紙回収・公園清掃、封入等の受注は継続し、作業所等連絡会の共同受注によりポスティングを実施した。
- 新型コロナウイルス感染拡大により各種イベント等が中止となり、従来の販売会は行えなかったが、地域のつどい代替行事や手づくり展の機会を活用し、自主製品を販売した。
- 地域の団体からは、昨年に引き続き、フードバンク調布より食品運搬業務を受託している他、新たに学生服のリユースを行っているさくらやからも衣類の補修作業を受注した。

実績等

企業等からの受託	和菓子の箱詰め、ねじの組み立て、部品組み立て・袋入れ、衣類
----------	-------------------------------

	の補修作業
自治体からの受託	封入、古紙回収
作業所等連絡会の共同受注	公園清掃、ポスティング（ふくしの窓、ごみカレンダー、地域活動情報誌）
手作り品製作販売	織物、刺繍、アクセサリ、くるくる希望の虹等
常設委託販売先	総合福祉センター
イベント販売	地域のつどい代替行事、手づくり展（例年出店しているパルコ前販売会、小地域交流事業、福祉まつり、市役所ロビー展示会等は中止）

分析・課題

- 自主製品の制作については以前から行ってきた織物や刺繍等が減少している。利用者個々の特性に合わせた新たな自主製品の開発が必要となっている。
- 昨年度より古紙回収先が増え、地域住民との関わりも増えた中で、利用者の役割意識も高くなっている。より地域に開かれた施設を目指し、地域との連携、密着した活動を行っていく。

4 昼食提供

結果の概要

- 配達弁当にて、普通食と低カロリー食を提供。肉禁やアレルギー食、きざみ食等、個別の対応も行った。

実績等

種類	回数／内容
配達弁当	原則として毎昼食。
出前注文	月1回、市内店舗より弁当等の出前を注文。
カレーの配達	月1回、市内のかれーやより配達。

分析・課題

- 利用者の健康状態に応じて、その都度食事形態を変更した。
- 出前注文により、普段とは違った食の楽しみを得る機会を設けた。

5 健康診断、健康管理

結果の概要

- 健康相談と合わせて問診（本場7回・分場3回）を実施し、必要に応じて医師・利用者・職員・家族と情報共有し、医師からのアドバイスを把握した。
- 看護師による月1回の体重・血圧測定を実施し、年間を通しての利用者の状態推移を把握した。

- こまめな手指消毒の促しや毎日の検温、施設内の換気等を行った。
- 本場にて、嘔吐物処理の訓練を1回行った。
- 歯科健診を行い、歯の状態確認とブラッシング指導、定期的な歯科受診のアドバイスを受けた。
- 健康相談は利用者及び家族にも同席を勧め、困りごとを相談し、課題を共有する機会となった。
- 災害時に備えて、1日分の薬を予備薬として預かっている。

実績等

種類	回数及び実施日時／内容
健康診断（多摩川病院）	5月13日／施設内で身体測定、検尿、胸部X線、視力、血液検査、HBs抗原抗体検査、HCV抗体検査、クレアチニンを実施。40歳以上を対象に、眼底、心電図、腹囲検査を実施。 6月11日／40歳以上を対象に通院し、骨密度検査を実施。
体重・体脂肪・血圧測定（看護師）	月1回／施設内で実施。希望の家看護師による測定。 月の推移をチェック。
インフルエンザ予防接種	季節性インフルエンザワクチンの予防接種 本場：11月4日 分場：10月26日
歯科健診（調布歯科医師会）	本場：7月20日 分場：9月8日
聴診、健康相談（嘱託医）	本場年7回・分場年3回、希望者及び健康診断結果を基にした対象者／健康の相談及びアドバイス
PCR検査	施設内で医師立ち合いのもと実施 本場：6月14日、1月27日、9月27日、2月24日 分場：6月14日、8月17日、1月17日、2月25日
新型コロナウイルスワクチン接種	本場：7月16日、8月6日、3月11日 分場：7月16日、8月6日、3月4日

分析・課題

- 高齢であることや持病がある等で重症化リスクの高い利用者が多いため、あらゆる感染症対策を行っていく必要がある。調布市とも協議しながら対応していく。
- 嘱託医との連携を深め、医療面・精神保健面の知識を職員にフィードバックする取組が更に必要である。
- 家族の高齢化により情報共有が難しいこともあるため、関係機関も含めて健康管理を行っていく必要がある。
- 災害時に備えて預かっている予備薬について、服薬の変更時にもスムーズに対応できるようにしていく。
- 新型コロナウイルスへの対応として、PCR検査やワクチン接種を適宜行っていく。

6 当事者活動の支援

結果の概要

- 利用者、家族の当事者活動を支援し、その意見を施設運営に反映するよう努めた。

* 利用者自治会（利用者で構成する会）

オンラインを活用し、自治会では3施設の活動報告等を行い、情報交換や顔合わせの場となった。利用者自治会長は運営委員としても活躍した。

* 家族連絡会

新型コロナウイルス感染拡大への配慮から、全て中止とした。

実績等

団体名	回数／内容
利用者自治会	月1回（3施設合同）／行事や活動の計画等
家族連絡会	年4回／情報提供、情報交換、意見聴取、家族懇談会等【事業中止】

分析・課題

○利用者自治会については、3施設間をオンラインでつないで、交流することができた。

7 送迎事業

結果の概要

- 自力での通所が困難な利用者を対象に実施した。
- 利用者の体調や安全面を考え、迅速な送迎サービス対応に努めた。
- 配慮を要する利用者やショートステイを利用する利用者に個別送迎を実施した。
- 密を避け、乗車人数を減らして運行した。車内の消毒実施を徹底し、感染予防のためビニールシートの設置を行った。

8 運営管理業務

(1) 苦情や要望の受付と問題解決

結果の概要

- 第三者委員2人と苦情受付担当者1人、危機管理責任者1人を置いて相談窓口とし、苦情・要望への相談対応や問題解決に努めた。
- より良い施設運営に向けた取組として、毎日の振り返り時に出しあった意見（ヒヤリハット）を「気付きメモ」として記録し、第三者委員会に向けて分析を行った。
- 効果的だった支援や利用者の成長が感じられた場面等の「ニヤリホット」についても記録を残し、今後の支援に活かせるようにした。

実績等

○第三者委員会を10月、3月に実施。事業実施状況、第三者評価の報告、事故・苦情や気付きメモの報告を行い、課題解決に向けて意見交換した。

- 毎日の支援でのヒヤリ場面や、次回同様の場面で気を付けるべきこと等を書き留める「気付きメモ」について、3月実施分から報告の形式を改め、各項目の件数から割り出した分析結果を提示するようにした。
- 本場の傾向としては「支援手順や方法に関すること」の件数が突出している。様々なこだわりや特性に対する構造化や環境調整を行っているものの、まだ不十分な点もあり、さらなる取組が必要となっている。次に「利用者の見失い・飛び出し」が多い。「衝動性の高い方との外出は常にマンツーマンの職員配置」「隙を作らない（常にフリーで即応できる状態の職員を配置）」を徹底するよう確認している。
- 分場の傾向としては「利用者間の他害」「利用者間のその他トラブル」の割合が高くなっている。分場は小規模な集団であり、区切られた部屋もないため、基本的に全利用者が同じスペース内で共に過ごしている。そのため、相性が合わない利用者同士も距離をとりにくく、トラブルが発生しやすい環境となっている。対応としては、相性の合わない方々を外出活動と施設内活動に分かれるよう調整したり、他害や他利用者への接触が頻回な利用者については本人が移動する際にさりげなく付き添うことや、パーテーションを使って相性の悪い利用者同士が視界に入らないような配慮を行っているが、引き続き対応を検討していくことが必要である。

分析・課題

- 第三者委員より、以下のような意見を頂いた。
 - ・職員研修の時間が確保できないことについて、研修動画を作成して職員に空き時間で視聴してもらうこともひとつの方法である。
 - ・家族会が開催できていないことについて、オンラインにて複数拠点に分かれて実施したり、活動の様子を映した動画を作成して視聴してもらう方法で情報提供する方法もある。
 - ・記録の書き方について、利用者に対して「不適切行動」等の偏った表現をしないように注意が必要である。
 - ・職員の支援について悪かった点を振り返るのみでなく、上手くいった支援を共有したり、お互いに良かった点を褒めあうことも大切である。

(2) サービス評価

結果の概要

○3年に1度の受審が定められている第三者評価を株式会社日本生活介護に依頼して実施した。

○評価結果については運営員会や第三者委員会でも共有した。

事業評価

項目	内容
利用者聞き取り調査	調査員による利用者本人への聞き取り。
家族アンケート調査	書面による家族へのアンケート調査。
職員自己評価	書面による職員の自己評価。
経営層自己評価	書面による経営層の自己評価。
訪問調査	評価項目に沿った資料確認およびインタビュー。

分析・課題

主な評価結果は次のとおりだった。さらなる改善が望まれる点については、次年度に改善するべく取り組んでいく。

特に良いと思う点

- ・社会福祉協議会が運営する事業所として、公益性や透明性を果たすとともに、利用者支援の質向上に職員が励んでいる。
- ・職員間の情報共有によりアセスメントやモニタリングの内容を充実させている。
- ・主体性を持った活動ができるように、利用者の特性や意向に沿って選択可能な日中活動を幅広く提供している。

さらなる改善が望まれる点

- ・コロナ禍後を見据えて、地域交流・地域貢献の取組を充実できるように、検討を進めていくことに期待したい。
- ・業務マニュアルを精査するとともに、活用しやすい閲覧方法についての検討が望まれる。
- ・家族会が2年近く開催されていないことから、家族とのコミュニケーション不足の解消のための工夫が求められる。

(3) 運営委員会

結果の概要

○新型コロナウイルス感染拡大防止に考慮しながら、8月、11月、2月の年3回実施した。希望の家深大寺運営委員会との合同開催とした。

実績等

調布市希望の家運営委員会委員構成

任期：令和2年4月1日～令和4年3月31日（敬称略）

	氏名	選出区分
委員長	日比生 信義	地域関係機関（石原小学校地区協議会）
委員	夏目 純一	市民有識者
委員	進藤 美左	NPO 法人調布心身障害児・者親の会
委員	野口 和代	希望の家家族会
委員	松永 美恵子	調布市希望の家自治会
委員	渡辺 益男	関係機関（調布市社会福祉事業団）
委員	能登 和子	関係機関（調布市民生児童委員協議会）
委員	武田 敏彦	調布市福祉健康部障害福祉課課長補佐
委員	田中 賢介	社協評議員
委員	橋本 ゆかり	社協理事

※希望の家深大寺運営委員会との合同開催とし、両委員会の委員長は副委員長も兼ね、両委員長が輪番で議長を務めた。

令和3年度 調布市希望の家及び希望の家深大寺合同運営委員会開催状況

回数	開催日	内容	出席人数
第1回	8月5日	令和2年度希望の家事業報告、希望の家3施設の近況報告、令和2年度利用者・家族アンケートの返答について	11人
第2回	11月10日	令和3年度希望の家上半期報告、『気づきメモ』の取組報告、令和4年度予算案及び新規利用者受入れ想定について	10人
第3回	2月24日	福祉サービス第三者評価（外部評価）報告について、令和4年度希望の家事業計画（案）について、令和4年度予算について	12人

分析・課題

○コロナ禍での事業運営や支援について、さまざまな角度でご意見を頂いた。地元地域から参加の委員からは、希望の家が長い年月をかけて地域へ定着したこと、また、施設運営の経験がある委員からは職員研修の充実化等、より具体的なアドバイスを頂いた。更に、家族会・利用者自治会代表も委員参加していることから、職員だけの視点ではなく、利用者や家族の視点も大事にして運営を進めてきた。

(4) 職員の資質向上

結果の概要

○オンラインでの研修に積極的に参加した。

実績等

研修会等	主催
てんかん基礎講座	日本てんかん協会
東京都区市町村社協職員基礎研修	東京都社会福祉協議会
新任職員研修	東京都社会福祉協議会
財務マネジメント中級研修	東京都社会福祉協議会
福祉職場に求められるリーダーシップのあり方	東京都社会福祉協議会
地域福祉コーディネーター等養成研修(基礎編)	東京都社会福祉協議会
区市町村社協の決算実務について	東京都社会福祉協議会
強度行動障害支援者養成基礎研修	公益財団法人東京都福祉保健財団
人材・専門研修「強い組織をつくる」	調布市福祉人材育成センター
人材・専門研修「請求事務の基本」	調布市福祉人材育成センター
東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉協議会
安全運転講習	トヨタドライビングスクール
「生きるのに理由はあるの？」(津久井やまゆり園)	都通研

障害平等研修	調布市福祉作業所等連絡会
社会福祉士実習指導者研修	東京都社会福祉士会
虐待防止研修	法人内研修

分析・課題

○職員自らが発案する「ミニ勉強会」や、受けた研修の内容をさらに深く話し合う機会をつくった。今後も職員が多様な視点を持って知識を習得できるよう、様々な研修を考えていきたい。

(5) 事業・建物管理

- 調布市障害福祉課及び調布市社会福祉協議会法人事務局と連携して、円滑な運営に努めた。
- 分場の改修工事が終了し、分場の代替活動場所としての機能も終了したため、令和3年度は、本場2階会議室の貸し出しを再開している。

(6) 危機管理体制の整備

結果の概要

- 衛生推進者を設置し、法人の衛生委員会に出席すると共に、衛生管理や環境整備に努めた。
- 新型コロナウイルスへの対応として、調布市と協議しながら、人との接触を最低限にするための事業・行事等の縮小や、消毒・換気の強化等を行っている。
- 毎月1回、火災や地震を想定して、各施設で避難訓練を実施した。

9 地域への働きかけ

結果の概要

- 人が多く集まる地域のつどいや販売会等のイベントは中止した。日常作業での近隣へのポストイングや公園清掃等は継続して行った。

実績等

活動名	内容等
地域のつどい	8月25日に「夏祭り&地域のつどい」として代替行事を実施。
季刊誌の配布	施設周辺地区の民生児童委員、自治会、公共施設等に配布した。
施設体験日の実施	【事業中止】
作業製品共同販売会	【事業中止】
小地域交流事業への参加	【事業中止】
災害時の地域貢献	災害時については、障がい者等に配慮した避難場所としての施設活用を市と協議している。
会議室(本場2階)の貸出し	希望の家分場の改修工事が終了したため、地域住民への貸し出しを再開している。

分析・課題

- 大きな行事は減少しているが、試行的に実施した夏祭りでは、屋外でのアイスクリームや自主製品の販売等により、近隣住民の方々と交流することができた。

10 その他

(1) 個別支援・日中活動の充実

結果の概要

- 個別支援計画に基づき、利用者の年齢や体力面、特性に応じた、きめ細やかな計画で日中活動や作業を行った。モニタリング、個別支援計画の振り返りを行った。
- 関係機関と連携し、利用者のサービス利用の拡大や他施設への移行に丁寧に対応した。
- 活動で作上げた作品を、講師の協力を得ながら「手作り展」でお披露目した。
- 外出等の活動が制限されたが、代わりに室内でタブレット端末を操作して楽しんだり、作業の練習として様々な自立課題に取り組んだり等、過ごし方を工夫して活動した。
- 新規利用者については、過ごし方の記録を詳細に取ることで行動の傾向をつかみ、本人の動きに合わせた支援方法の統一を図った。

分析・課題

- 「手作り展」は毎年好評だが、日頃の作品の活かし方、より多くの方に見ていただくための会場選びの工夫等が課題である。
- 他の福祉サービスや医療、グループホーム等の関係機関との連携を強化し、利用者・家族への情報提供を更に進める必要がある。
- 利用者家族の高齢化が著しいため、家族も含めた見守りや緊急対応が一層必要になる。
- どのような状況下でも安心して取り組むことができる活動を充実させる必要がある。

(2) 広報

結果の概要

- 個人情報保護を徹底するため、広報紙等での写真利用は本人及び家族の同意を得た上で行った。
- 令和3年度は季刊誌を3回発行し、利用者の手書き文字や感想を取り入れた。また、写真をふんだんに使い利用者にも見やすいよう紙面を工夫した。
- 季刊誌への活動や行事の写真掲載は、利用者、家族、市民に好評であった。
- 施設紹介用パンフレットを大幅にリニューアルした。紙面を分かりやすく工夫したほか、絵や文字を書いてもらう形で制作の過程に利用者が参加した。

実績等

種 類	回数／内容
月のお知らせ	月1回／利用者・家族・関係者向けの予定表とお知らせ
季刊誌	年3回／行事や活動、販売会の売り上げ報告等

ホームページ（社協 HP 内）	地域のつどいが中止だったこともあり未実施
-----------------	----------------------

分析・課題

- 季刊誌は、読み手の立場に立ち、読みやすい紙面を意識して制作に取り組んだ。より興味を持って手を伸ばしてもらえるように配架用も全てカラー印刷にした。
- 地域への施設理解を広めるために、ホームページにて季刊誌を閲覧できるようにする等、積極的にネット媒体も活用していく。

(3) ボランティア、協力員、実習生の受け入れ

結果の概要

- 近隣のボランティアや協力員に、利用者支援や作業・活動をサポートしていただいた。日中活動のボランティアでは、人生経験が豊富な地域の方に来ていただき、さまざまな良い効果が生まれている。
- けやきの森学園からの実習生の受け入れは行わなかった。

実績等

行事・活動	人数	内容
織物・刺繍製品仕立て	1人	縫製
日中活動	3人	作業補助等
地域のつどい（年1回）【事業中止】	0人	
水泳教室【事業中止】	0人	
園芸作業	1人	作業の手伝い、園芸
体操教室・音楽教室・ジャンベ教室・アート教室・パソコン教室等	6人	専門協力員等、利用者の付き添い
慈恵医科大学及び社会福祉士実習生	5人	
府中けやきの森学園からの実習生	0人	
合計	19人	

第2 希望の家深大寺管理運営

番号	事業名	財源			
		自主 他	補助 市都	委託	利用 ○
(2)	希望の家深大寺管理運営事業				○

結果の概要

- 利用者・職員それぞれにコロナ陽性者が出たが、施設内感染には至らず、日々可能な限りの感染対策に努めた。そうした対策を講じていく中で、陽性者が出た際には、一時的に縮小または中止とすることもあったが、継続して教室活動等のプログラム活動を提供することができた。
- 利用者1人のコロナ陽性者が出た際に、濃厚接触者を増やさないために、1日だけ施設閉所を行った。
- 施設敷地内において、いちご狩り体験や人数を制限しての地域住民向けのキッチンカー販売を行う等、新たな取組も実施した。
- 一時的にでもマスク着用が可能になった利用者が増えてきたこともあり、今後、外出活動先の拡充も検討していく。
- 個別支援計画に基づいた支援を行い、利用者の生活課題に対しても家族や関係機関と連携しながら取り組んだ。また、家族の死去や入院により世帯状況が急変した利用者家族に対して、新たな支援機関を繋いで地域生活を継続していけるようにする等、世帯支援も積極的に行った。
- 日々の振り返りミーティング等で、様々な事例を通して、支援の在り方や必要な視点・考え方を職員間で共有できるように努めた。
- 3年に一度の実施が定められている第三者評価を受審した。

1 利用人数

結果の概要

- 希望の家深大寺の利用者19人（年度開始時点）。新規利用者として4月から2人が入所した。

実績等

利用実績（年間）※休日／土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
利用人数(人)	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	242	19人
開所日数(日)	21	18	22	20	21	20	21	20	20	19	18	22	4019	20.2日
のべ出席人数(人)	349	302	352	328	346	339	356	337	340	321	285	364	4019	334.9人
出席率(%)	87	88	84	86	87	89	89	89	89	89	83	87	4019	87.4%

利用者年齢構成等（令和4年3月31日現在）

年齢	男	女	小計
～19歳	0人	2人	2人
20～29歳	7人	3人	10人

30～39 歳	3 人	1 人	4 人
40～49 歳	1 人	0 人	2 人
50～59 歳	1 人	1 人	1 人
60 歳～	0 人	0 人	0 人
計	12 人	5 人	17 人
平均年齢	29.6 歳	28 歳	29 歳

利用者障害支援区分構成（令和4年3月31日現在）

希望の家深大寺			
障害支援区分	男	女	合計
区分1	0 人	0 人	0 人
区分2	0 人	0 人	0 人
区分3	0 人	0 人	0 人
区分4	0 人	1 人	1 人
区分5	4 人	0 人	4 人
区分6	8 人	6 人	14 人
計	12 人	7 人	19 人

2 健康維持、教養娯楽活動、各種イベント等

結果の概要

- 専門講師によるダンス教室、音楽教室、ジャンベ教室、水泳教室、作業療法活動において、各利用者が参加しやすいよう、グループ構成、活動時間等にも配慮して行った。
- コロナ陽性者が出た際に一時的に中止とした。また、講師の事情により中止とした回もあった。
- マスク着用に慣れていくために、屋外でのウォーキング活動等でも着用を促した。徐々にそうした機会の積み重ねから、一時的にでもマスク着用が可能となった利用者が増えた。

実績等

健康維持活動	回数／時間・対象者
朝のラジオ体操	毎日朝・5分
ウォーキング	一人週1回以上の実施
ダンス教室	月2回・1時間×2チーム（講師活動）
水泳教室	月1～2回・40分×2～3チーム（講師活動、10月～11月に実施）

教養娯楽活動	回数及び実施日時／時間・対象者
音楽教室	月2回・1時間（講師活動、ピアノ伴奏による合唱・合奏）
ジャンベ教室	月2回・1時間（講師活動、みんなで打楽器を自由に演奏）

運動会	【事業中止】
音楽鑑賞会	11月12日にプロミュージシャンを招いて実施。
年度末お楽しみ会	感染症対策のため、ピザ専門店で購入した。

その他の活動	回数／時間
作業療法活動	月2回・1時間×2チーム（講師活動、創作及び運動機能維持等の活動）
入浴活動	月1～3回・30分（希望制による個別活動、身体整容と気分転換を兼ねて、施設内の浴室で実施）

分析・課題

- 各利用者の興味・関心、体力面、特性・相性に応じてグループ分けをし、各種活動の提供をした。より積極的に参加できるように、活動提示の仕方や環境づくりの検討が必要である。
- 感染対策のため、水泳教室は例年よりも実施回数を減らした。プールが好きな利用者も多かったため、敷地内でビニールプールを広げて水遊びをしたり、入浴活動を増やしたりして、水泳教室に代わる活動の機会を設けた。

3 生産活動

結果の概要

- 企業からの受注（ねじの組み立て・採便管の封入）により、年間を通して安定した作業量を確保し、利用者に作業活動を提供した。
- 毎週2回、古紙回収作業を実施した。
- 調布市福祉作業所等連絡会の共同受注により、2種類のポスティング作業を実施した。
- 調布市希望の家が受注している公園清掃を一部協力して行った。

実績等

企業等からの受注	ねじの組み立て、採便管の封入、古紙回収
作業所等連絡会の共同受注	ポスティング（ふくしの窓、地域活動情報誌）

分析・課題

- 利用者それぞれに合わせた作業工程を工夫することで、日常的に取り組める活動として、全ての利用者に何かしらの作業活動を提供することができた。
- 企業等からの受注作業がない時に、これに代わる施設内で安定して提供できる活動が少ない。生活介護施設として、受注作業に頼らない日中活動を豊かにする取組の検討が必要である。

4 昼食提供

結果の概要

- 配達弁当にて、普通食と低カロリー食、刻み食、おかゆや軟飯に対応して提供した。
- お楽しみとして月1回の出前や、「ミニ調理」（お楽しみ調理）を実施した。
- 令和2年度に引き続き、感染症対策として、「ミニ調理」は職員のみが行い、利用者とは調理活動の一部を共に行った。

実績等

種類	回数／内容
配達弁当	原則として毎昼食。
カレーの配達	月1回（第3水曜日）、市内のかれーやより配達。
出前の実施	月1回／近隣の飲食店から選択制で注文を取り出前を楽しむ。

分析・課題

- ミニ調理では「自分のものは自分で作る」をテーマにしていたため、感染症対策に取り組みながらも、利用者が少しでも楽しみながら参加できる事を目標として、実施することができた。
- 加齢による咀嚼・嚥下機能の低下等を考慮した食事形態や食事量について、必要な方とは家庭とも相談し検討したうえで、適宜対応した。
- 利用者の楽しみでもある食事場面を、いかにバリエーション豊かに提供していくか課題である。

5 健康診断・健康管理

結果の概要

- 健康相談を6回実施し、必要に応じて医師からの助言を利用者家族と情報共有した。
- 健康相談には家族の同席を勧め、その際の相談から、家庭での課題を共有する機会となった。
- 看護師による月1回の体重・血圧測定を実施し、年間を通して利用者の状態推移を把握した。
- 看護師による月1回の健康チェック時以外にも毎朝の検温を実施した。また、状況によっては血圧測定や血中酸素濃度の測定を行い、利用者の体調変化の把握に努めた。
- 歯科健診を行い、歯の状態確認とブラッシング指導、歯科受診等の助言を受けた。
- こまめな手指消毒の促しや施設内の換気等を行った。また、人の手が触れる箇所や共有使用される物品等を適宜、消毒清掃した。
- 職員に限らず、全ての来所者にも手指消毒や検温を実施した。
- 災害時に備えて、1日分の薬を予備薬として預かっている。

実績等

種類	回数及び実施日時／内容
健康診断 (多摩川病院)	5月28日／施設内で身体測定、検尿（自宅にて採尿）、胸部X線、血液検査、血圧測定、HBs 抗原抗体検査、HCV 抗体検査を実施。40歳以上の

	利用者には上記検査に加えて、眼底、心電図、腹囲、骨密度検査を実施。
体重・体脂肪・血圧測定 (看護師)	月1回／施設内で実施。希望の家看護師による測定。 月の推移をチェック。
インフルエンザ予防接種	季節性インフルエンザワクチンの予防接種。 11月5日に施設内で実施。
歯科健診(調布歯科医師会)	7月13日に施設内で実施。
健康相談(嘱託医)	年6回、希望者及び健康診断結果を基にした対象者／健康の相談および アドバイス。
PCR検査	施設内で医師立ち合いのもと実施。 4月6日、6月14日、9月27日、1月13日、2月14日、2月25日
新型コロナウイルス ワクチン接種	①7月16日 ②8月6日 ③3月4日

分析・課題

- 令和2年度から限定した場面・時間でのマスク着用を促す機会を増やしていったこともあり、利用者もマスクの着用に徐々に慣れてきた。
- 嘱託医と連携をとり、家族や職員の相談、利用者の健康管理に役立てた。各利用者のわずかな体調変化にも気づき対応していけるよう、今後も職員間での情報共有と嘱託医との連携を図っていく必要がある。

6 当事者活動の支援(調布市希望の家と共通)

※調布市希望の家の該当項目参照。

7 送迎事業

結果の概要

- 希望する利用者を対象に実施した。令和3年度は全利用者が送迎を希望した。
- ショートステイ等を利用する場合は、受け入れ先への送迎を行った。
- 利用者や家庭の状況によって、個別送迎に対応した。

分析・課題

- 各利用者の特性や相性等を鑑みながら、乗車位置や送迎ルートを設定しているため、ワゴン車4台で運行している。内1台は朝送迎が2便体制となっている。車内の安全・安心を保つために必要な対応だが、送迎に携わる職員が多くなり、勤務体制に支障が生じることもある。

8 運営管理業務

(1) 苦情や要望の受付と問題解決（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

(2) サービス評価（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

分析・課題

主な評価結果は次の通りだった。さらなる改善が望まれる点については、次年度に改善するべく取り組んでいく。

特に良いと思う点

- ・職員間のコミュニケーションが良好であり、毎日の振り返りや会議を含め日常的なスキルの共有が行われている。
- ・苦情解決第三者委員会との意見交換や運営委員会の定期的な実施により、運営の透明化に努め、地域との関係づくりにも注力している。
- ・利用者の地域生活を支援するために、家族の課題に対しても関係機関と連携した支援を行っている。

さらなる改善が望まれる点

- ・受注作業や外出活動ができない日もあることから、事業所内で継続的に行える活動の創出が期待される。
- ・利用者の毎日の状況を記録する生活記録の内容にばらつきがあり、標準化が求められると共に、ICT化による記録業務の効率化が望まれる。
- ・利用者の活動の幅を広げたり、利用者同士の関係性を支援するために、受け入れ方針について検討を進めていくことが期待される。

(3) 運営委員会（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

希望の家深大寺運営委員会委員構成

任期：令和2年4月1日～令和4年3月31日（敬称略）

	氏名	選出区分
※委員長	矢田部 正照	関係機関（深大寺北町山野自治会）
委員	夏目 純一	市民有識者
委員	進藤 美左	NPO 法人調布心身障害児・者親の会
委員	野口 和代	希望の家家族会
委員	松永 美恵子	調布市希望の家自治会
委員	森井 進次	関係機関（NPO 法人わかばの会）
委員	伊地山 和茂	関係機関（調布市民生児童委員協議会）

委員	武田 敏彦	調布市福祉健康部障害福祉課長補佐
委員	田中 賢介	社協評議員
委員	橋本 ゆかり	社協理事

※調布市希望の家運営委員会との合同開催とし、両委員会の委員長は副委員長も兼ね、両委員長が輪番で議長を務めた。

(4) 職員の資質向上

結果の概要

- 日頃のミーティングにおいて、適切な支援の在り方やヒヤリハット事例の共有をした。送迎等で不在の職員もいるため、業務日誌に記録化することで、各職員がミーティング内容を振り返れるようにした。
- オンライン・オンデマンド配信による研修も多く実施されたため、積極的に参加した。

実績等

研修会等	主催
東京都区市町村社協職員基礎研修	東京都社会福祉協議会
てんかん基礎講座	公益社団法人日本てんかん協会
強度行動障害支援者養成研修	公益財団法人東京都福祉保健財団
地域福祉コーディネーター等養成研修	東京都社会福祉協議会
職員交換研修（市内事業所間）	調布市福祉作業所等連絡会
関東ブロック社協合同研究協議会	神奈川県社会福祉協議会
サービス管理責任者更新研修	東京都サービス管理責任者等研修事務局
会計実務講座初級コース（通信課程）	全国社会福祉協議会
専門研修（オンデマンド配信）	調布市福祉人材育成センター
行動援護従業者養成研修	調布市福祉人材育成センター
福祉職員のための記録の書き方	調布市福祉人材育成センター
福祉職のダークサイドを考える	調布市福祉人材育成センター
安全運転講習	トヨタドライビングスクール
虐待防止研修	法人内研修

※ 上記以外に、社協全体での研修等に参加

分析・課題

- 外部研修に参加した職員からの報告の時間を作りフィードバックを行った。
- 日頃の振り返りミーティング等で支援の質を上げていくための検討は随時行っているが、全職員揃った内部研修は開催できなかった。配信動画等を有効活用する等、内部研修の工夫が必要である。

(5) 事業・建物管理

結果の概要

- 調布市障害福祉課及び調布市社会福祉協議会法人事務局と連携して、円滑な運営に努めた。
- 各設備等の必要な定期点検を実施した。

(6) 危機管理体制の整備（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

9 地域への働きかけ

結果の概要

- 9月4日に予定していた「地域のつどい」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。
- 地域の自治会パトロールへの参加等、地域住民との交流を進めた。

分析・課題

- 例年地域のつどいは地域住民と施設との交流を目的とし、利用者も楽しめる行事として行っていたが、令和3年度は中止したため、代替え企画として、市内他事業所に協力をいただき、「妖怪焼き」のキッチンカーによる地域住民向けの販売会を行った。利用者も購入して、食を楽しむ機会になった。今後も、感染状況に左右されずに開催できる地域交流イベントの検討が必要である。

10 その他

(1) 個別支援・日中活動の充実

結果の概要

- 利用者の年齢や体力面、特性に応じた個別支援計画を作成し、それに基づき日中活動や作業を行った。
- 通常では複数で活動するためペースを他者に合わせる事が多くなる利用者に、職員とマンツーマンで活動する機会もつくる等、個々に必要となる支援を考え取り組んだ。
- 状況に応じて個別送迎を行った。また、家庭の事情に合わせ延長利用にも対応した。

分析・課題

- 既定のプログラム活動にとらわれず、各利用者のニーズに合った活動を考えていく必要がある。

(2) 広報（調布市希望の家と共通）

※調布市希望の家の該当項目参照。

(3) ボランティア、協力員、実習生の受け入れ

結果の概要

- ボランティアや協力員に、利用者支援やプログラム活動のサポートをしていただいた。市民が関わることにより、新たな視点を見つけることや地域での理解者を増やすこととなった。
- けやきの森学園からの実習生の依頼はなかった。

実績等

行事・活動	人数	内容
水泳教室	2人	利用者の付き添い
園芸作業	1人	園芸
水泳・ダンス・音楽・ジャンベ教室講師	5人	専門協力員
社会福祉士実習生	0人	依頼なし
府中けやきの森学園からの実習生	0人	依頼なし
合計	16人	